

第2章

めざすべき環境像と基本目標

2. 1 めざすべき環境像

2. 2 基本目標

2. 1 めざすべき環境像

枚方市環境基本条例の基本理念等を踏まえ、本計画のめざすべき環境像を次のとおり設定します。

めざすべき
環境像

みんなでつくる、環境を守りはぐくむまち 枚方

本市は、豊かな水の流れを持つ淀川や市街地を貫くように船橋川・穂谷川・天野川の3河川が流れており、東部地域には大阪府内でも貴重な里山があるなど、豊かな自然に恵まれています。また、昭和40年代から大阪・京都のベッドタウンとして人口が急増し、現在41万るもの多くの人たちが生活を営み、活動を行っています。

現在、地球環境問題がその予想される影響の大きさや深刻さから見て、人類の生存基盤に関わる最も重要な環境問題となっています。

私たちの生活は、長い年月をかけて創り出された環境から多くの恵みを受けて成り立っていますが、同時に二酸化炭素の排出など環境に負荷も与えています。

そうしたことから、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を最小化するための配慮が徹底され、生活の豊かさを実感できる低炭素社会に向けた取り組みを推進するとともに、豊かな自然など環境の恵みを将来の世代に引き継いでいかなければなりません。

そのためには、私たち一人ひとりが環境に対して関心を持ち、自ら考え方行動し、恵み豊かな環境を守りそして創り出していく必要があります。

こうした取り組みを市民・事業者・行政の連携・協力によって進めている「みんなでつくる、環境を守りはぐくむまち 枚方」をめざすべき環境像として設定しました。

2. 2 基本目標

本計画のめざすべき環境像を実現するため、次のとおりめざすべきまちの姿である5つの基本目標を設定します。

基本目標1 【人づくり】

すべての主体が環境保全活動に参加するまち

一人ひとりが高い環境意識を持ち、すべての主体が連携・協力しながら、自
主的・積極的に環境保全活動を推進するまちをめざします。

基本目標2 【地球環境】

地球環境への負荷が少ないまち

エネルギーの有効利用など地球温暖化防止に向けた取り組みを積極的に推
進するまちをめざします。

基本目標3 【自然環境】

豊かな自然が保全され、人と自然とが共生するまち

市内の優れた自然環境を保全するとともに、市内にある多様な生態系が守ら
れ、人と自然とが共生するまちをめざします。

基本目標4 【都市環境】

環境に配慮された快適な都市空間が確保されたまち

環境にやさしい都市基盤や交通体系が整備され、歴史文化遺産の保全と活用
ができるまちをめざします。

基本目標5 【生活環境】

安心して暮らすことができる良好な環境が確保され、資源が循環しているまち

廃棄物の発生抑制など循環型社会を形成するとともに、澄んだ空気、清らか
で豊かな水、静けさなどが確保された安心して健康に暮らすことができる良好
な生活環境を将来の世代に引き継ぐことのできるまちをめざします。

コラム

生物多様性について

生物多様性とは、生きものの「個性」と「つながり」です。地球上には、森、里、川、海など様々な自然の中に、それぞれの環境に適応して、進化した3,000万種ともいわれる多様な生きものがいます。それらの生きものは互いにつながり、支えあって生きています。私たち人類も、他の生きものとのつながりの中で生きています。

生物多様性条約では、生物多様性を「すべての生物の間に違いがあること」と定義し、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性という3つのレベルでの多様性があるとしています。また、日本において第1から第3までの生物多様性の危機があるといわれており、地球温暖化による影響も深刻な問題とされています。

3つのレベルの多様性

生態系の多様性	種の多様性	遺伝子の多様性
森林、里山、河川、湿原、干潟、サンゴ礁などいろいろなタイプの自然があること。	動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生きものが生息・生育していること。	同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があること。
		
		
		

日本の生物多様性の危機

第1の危機

人間活動による生態系の破壊、種の減少・絶滅

戦後、干潟の面積の約4割が減少するなど、埋め立てなどの開発や生きものの乱獲、過剰な採取によって生息・生育環境を悪化・破壊しています。

第2の危機

里山など人間の働きかけの減少による影響

耕作放棄地や手入れ不足の雑木林などが増えることで、生態系のバランスが崩れ、里山などの生きものが絶滅の危機にさらされています。

第3の危機

外来種などによる生態系のかく乱

アライグマやオオクチバスをはじめとする外来種などが、在来種を捕食したり、生息・生育場所を奪ったりしています。

出典:環境省自然環境局 生物多様性センター